



第64回 JEA 総会の理事会・3年ぶりに代議員が勢ぞろいした総会となりました。

力を合わせて戦うために



水口功理事長
東京フリー・
メソジスト教団

6月の第38回日本福音同盟(JEA)総会で理事長に選出された東京フリー・メソジスト教団の水口功と申します。「想定外」の決定に戸惑いましたが、「わたしが…してあげよう」(マルコ1:17)のみことばに後押しされて、これから3年間の責務に当た

せていただきます。

先日1986年にJEAが再編された後に出版された「日本の福音派—21世紀に向けて—」(1986年日本福音同盟発行)を再読しました。1968年のJEA創設期、また86年の再編期に携わった先輩諸師の熱意と指導力に感銘を覚えました。新しいことに着手し、さらに整えていくためには、力と英知を結集させて労する必要があったのだと思いました。それとともに、再編から40年近い年月を経た今のJEAには、当時の活力や勢いがどれほどあるのだろうかと問われました。21世紀になって早20年以上が経過した現在、JEA加盟の諸教団の働きそのものが、多岐にわたり拡大してきたと思います。そのこと自体は、各教団の成長の証であり喜ばしいことです。それゆえに、JEAの総会に出席される代議員の方々の所属教団と教会の負担が重くなり、超教派団体の働きであるJEAのために注ぐエネルギーには、限りがあるのが正直

なところかもしれません。しかし今、JEAに加盟している私たちが毎年の総会資料の表紙に記されている「心を一つにして福音のために力を合わせて戦い」(ピリピ1:27)を文字通り体験していくためには、今の日本の教会の共通課題が何であるかを見据え、それぞれの立場で課題に対する取り組みに主体的に関わっていく必要があると思います。理事会はそのための潤滑油、調整役の機能を果たすとともに、いざという時には音頭を取っていく使命があると認識しています。

私自身は学生時代にKKG(キリスト者学生会)の活動に関わり、超教派の幸いを体験しました。その後ずっと関心を持ち続けてきたテーマが、スモールグループによる交わりと伝道、日本とアジア、特に韓国との宣教協力でした。また2020年度から理事として奉仕した3年間は、コロナ禍の日々でした。そのように神が導かれたプロセスを経てこの度、理事長の大役を仰せつかりました。今現在の日本のキリスト教界の共通の課題である2030年問題、アジア諸国のキリスト者との交わりと宣教協力、コロナ禍で日本の多くの教会に普及したオンラインの今後のあり方、9月に開かれるJCE7以降の伝道会議のあり方、しのびよる異端から諸教会を守るための対策などに、理事の方々はじめ、加盟団体の皆さまと共に力を合わせ、取り組まさせていただきます。理事長の器ではないと自覚している者ですが、ご祈援をよろしく願います。

目次

巻頭言	1
JEA 新理事の紹介	2
宣教ガイド 2023 GJCF イン東海	3
JCE7 グローバルナイト 聖書信仰の成熟を求めて	4
流れのほとり アライズ・アジア 2023	5
その時に備えて Part 3 AEA40 周年大会	6
C link ゆるくりナイト	7
JEA アップデート 総務局より	8

JEA 新理事 (2023-2025 年度) の紹介

2023年6月5～7日に第38回JEA総会が開催されました。理事選挙及び理事長選挙が行われ、理事12名が選出されました。理事長には水口功先生（東京フリー・メソジスト教団）が選出されました。水口先生の紹介は巻頭言にて代わりとさせていただきます。以下、11名の新理事の先生方を紹介します。



日本バプテスト教会連合の倉嶋新です。副理事長としてご奉仕させていただくことになりました。JEAが諸教会の交わりと協力の良き基盤となれるように願いつつ、お仕えしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



日本聖契キリスト教団の関野祐二（副理事長）です。聖契神学校校長、鶴見聖契キリスト教会牧師を続けています。JEAでは2004～2017年神学委員会委員、2018～2023年協力会員世話人でした。JEA総会で夜に望遠鏡で皆さんに星を見せるのが楽しみのひとつです。



日本ホーリネス教団の鈴木英夫（会計・正）です。1990年4月に牧師となって以来33年間、教団内の働きや福音派を超えた場所での学び（説教塾）に関わってきましたが、JEAのことはほとんどわかりません。ご指導を賜りながら、少しでもお役に立ちたいと願っております。



日本福音自由教会協議会の北野献慈です。社会委員会と会計（副）を担当いたします。JEAが今日の教会の課題に対して相応しい提案、発信、そして協力の場となり、日本宣教の推進に豊かに用いられるよう尽力いたします。



日本イエス・キリスト教団の船田肖二（宣教委員会担当）です。いつの時代も困難は尽きることはありません。だからこそ、私たちと共に力強く働かれる主を見上げて、与えられているJEAの交わりと働きを、みんなで楽しみめればと思います。共にいてくださる主に期待します！



日本同盟基督教団の吉持日輪生です。書記・正として精一杯取り組みますので、よろしくお願いいたします。



日本メノナイトブレザレン教団の大山明です。理事会では副書記を担当します。JEAが福音の豊かさを分かち合える教会について次世代の皆さんと一緒に考える場となり、日本宣教の前進を促す助けとなることを期待しています。



イムヌエル綜合伝道団の川嶋直行です。神学委員会の担当理事となりました。人口も経済も縮小時代に突入した日本において、時代に相応しい教会（教界）の在り方を神学し、提案して行くJEAであれば願っています。



理事二期目となりました活けるキリスト一麦の群・西宮教会の神戸博央（援助協力委員会担当）です。大きな教団だけではなく、小さな教団教派の視点を大切にします。一方、世界の福音派を意識し、日本の社会で「世の光、地の塩」としてのJEAの働きに期待します。



チャーチ・オブ・ゴッドの関昌宏です。女性委員会を担当いたします。教会には女性が多く、大切な役割を担っています。その賜物が用いられて健全な教会形成がなされるように願っています。微力な者ですが、どうかよろしくお願いいたします。



日本長老教会・四日市キリスト教会の大竹護（青年委員会担当）です。最初の一年は、JEAの歩みを確認すること、先輩方に教えて頂くことを通して、理事として具体的に何に取り組んだら良いか、祈り検討することに注力いたします。

宣教ガイド 2023 について

中西雅裕 宣教委員長
日本ホーリネス教団



この8月に、『宣教ガイド 2023～「おわり」から「はじめる」宣教協力～』が出版されることを、心から主に感謝いたします。

この数年、コロナ渦によって、今まで当然のようになって来た礼拝、交わり、宣教ができなくなりました。どうすれば良いのか・・・教会につながるクリスチャンみんなが、考えざる得なくなりました。世界中にもたらされた、大きな変化です。その中でこれは、活動を止めて静まり、

信仰、教会生活、礼拝、宣教などの本質を考える機会を神さまが与えて下さったのではないか、と思うようになりました。神さまによって強制リセットスイッチが押され、新しい何かが始まることを神さまが期待しておられるのではないかと。

今後、しばらくの間はコロナとの共存となるでしょう。あえてウィズ・コロナという言葉を使わせていただきますが、ウィズ・コロナの時代は以前のやり方にただ戻るのではなく、本質を見極め、おわらせるべきものを終わらせ、新しくはじめるものを始めていく「新しい時代」の始まりなのです。複雑になりつつある社会の変化に目を向けて、災害、環境破壊、少子高齢化、デジタル化、国際政情不安、多文化共生などの課題に教会がしっかりと向き合う必要があります。このコロナ渦で、私たちは今まで出来ないと思ってきたデジタル化を、否応無く受け

入れ、適応し、それが出来ているのですから。

この変化への適応の助けとなる基本データとして発行されるのが、この『宣教ガイド 2023～「おわり」から「はじめる」宣教協力～』です。日本福音同盟（JEA）宣教委員会宣教研究部門のメンバーが幅広いところからデータを集め、考え、Zoom 会議や合宿を繰り返して、第7回日本伝道会議（JCE7）に合わせて執筆しました。前回の伝道会議以降の、キリスト教界に関する変化をまとめてあります。ぜひ、このデータを用いて議論し合いたいと思います。

以前の JCE6 の時、発行されたデータブックをボロボロになるまで何度も読み、線を引いて、考えたという方のお証を聞いて感激しました。この日本での宣教のために、私たちも真剣に考え、互いの議論を深め合い、宣教に関わっていきたくて願います。すべての教会がこの『宣教ガイド 2023』を手にし、現状を分析し、宣教に役立てて欲しいと思います。すべての神学生がこの『宣教ガイド 2023』をもとに、日本での宣教について学んで欲しいと願っています。

この「宣教ガイド 2023」を書くために、一緒に知恵をしばった宣教研究部門のメンバー一人ひとりに感謝します。「おわりからはじめる私たちの祈り」を作りあげて下さった宣言文作成のメンバー全員に感謝します。そして何よりも私たちに期待をして下さる神さまに感謝いたします。日本と世界の宣教が進みますように！祈りつつ。

世界がキリストにつながる宣教協力

横山 誠
戸田福音自由教会

今秋、開催される第7回日本伝道会議のオプションプログラムとして「GJCF イン東海（グローバル・ジャパニーズ・クリスチャン・フォーラム）」が、長良川国際会議場にて9月21日（現地会場のみ）、22日（現地会場と zoom にて）に開催されます。このフォーラムは、ディアスポラ宣教協力の必要性と可能性を確認し、世界大のキリストのからだなる教会を可視化させるために、在外日本語教会と日本の教団・教派・地域教会とディアスポラ宣教に取り組む宣教団体が協力し、協働の働きを目指す取り組みです。

その第一歩は皆様の参加です。既に様々な立場で在外日本語宣教に取り組み、それを支援し、帰国者を受け入れ、あるいはこうした働きに関心と興味をもっておられる皆様がおられることでしょう。またもう一方で、これまでこうした働きについては関わった事はない、考えた事もないと言われる方がおられるかもしれません。しかしその様な皆様方が一同に会し、本フォーラムにおいて互いの状況と必要を知り、互いの役割を確

認し、新たな気づきを与えられ、新たな方策、新たな枠組みを探り求めていくことが出来れば幸いです。

私たちの教会は埼玉県戸田市にある小さな教会です。市内には在日外国人の皆さんも多く、礼拝にも来られます。留学先で信仰をもたれた姉妹が、礼拝後に彼らと交わり、良きフォローをしておられます。かつての自分に重なるからでしょう。今後も日本では在外邦人数、在日外国人数が増加することでしょう。しかしそれは、国籍や言語を超えたキリストのからだなる教会が、終わりの日に向かい、確かに形づくられていくことの証ではないでしょうか。

グローバルナイトのご招待

吉永輝次 宣教委員
異文化宣教ネットワーク部門
JOMA

第7回日本伝道会議（JCE7）でオープン集会として開催される「グローバルナイト」は、東海地域および全国の様々な外国語教会の姉妹・リーダーの方々と共に集い、交わり、分かち合うセッションです。私たちは次の三つの目的をもって、今後の具体的な協力関係を志向することをチャレンジします。

1. 何より、言語・文化・習慣を超えて、共に主を賛美し、宣教の主に祈り、日本に於いて神の国の到来を求めます。このことを通して、日本の教会が「エルサレム教会」から「アンテオケ教会」に変えられる事が期待されています。
2. さらには、日本の諸教会と在日外国語教会との関係を深めていきたいと願っています。在日外国語教会では日本人の救いの為に涙の祈りと宣教の働きが献げられています。
3. そして、在日外国語教会同士の交わりと新たなネットワークが誕生する様に、JCE7 また JEA 宣教委員会では出来限りのことをさせていただきたいと思っています。

これは「支援」というよりも「協働」の働きと言えるでしょう。

JCE7 では2回の集会が行われます。一つ目はグローバルナイトのプレセッションです。9月21（木）16:00～17:30に行われます。外国語教会のリーダーたちが集まる集会です。そして同日18:30～20:30にメインのグローバルナイトの集会が行われます。こちらはオープン集会で、だれでも参加することができます。事前登録が必要となりますので、以下のURLから申込みをお願いいたします。オンライン参加も可能です（教会や家族で参加できます）。通訳をつけることができますが、事前にご相談ください。申込締切は8月末日です。※定員になりましたら、8月を待たずに締め切ります。ご質問、お問合せは以下までお願いします。
メール office@joma.jp yoshiyoshikameyo47@gmail.com
担当者 吉永輝次

JEA 神学委員会

『「聖書信仰」の成熟をめざして2』（神学論考集）の発行



神学委員会では2022年度の取り組みとして、各委員が『「聖書信仰」の成熟をめざして2』の原稿執筆に取り組んできました。これはJCE6から7年にわたって神学委員会がプロジェクトとして取り組んできたものの集大成となります（JCE6ではいのちのことば社から『「聖書信仰」の成熟をめざして』という書籍を2017年に出版しました）。そして2023年8月に神学論考集として発行します。

2016年から7年の歳月が経過し、その間に、日本と世界では新型コロナウイルス感染症によるパンデミックやセクシュアリティの課題など実に多様な現実的な問題が起こり、教会はその課題に取り組んできました。神学委員会でも「聖書信仰」を土台としながら、現在、教会が直面している課題にそれぞれの委員が取り組み、苦悩しながら、それぞれ

の専門性と問題意識から原稿を執筆してきました。

論考集の執筆者とタイトルを紹介させていただきます。（1）聖書神学的な聖書信仰へ（千代崎備道）、（2）聖書信仰の基本線～宗教改革の伝統を軸にして～（青木義紀）、（3）聖書信仰の成熟としての礼拝～コロナ禍を経て、改めて礼拝を考える～、（4）聖餐の教会論的位置づけ（青木義紀）、（5）福音とセクシュアリティ～混乱の時代だからこそ～（赤坂泉）、（6）LGBTQ+と共に生きる教会（吉川直美）、（7）教会と政治：ロマ書13章1～7節（平松契）、（8）デジタル技術と教会～変化の時代を生きる教会～（篠原基章）、（9）AI技術の成熟と教会を考える～30年後を見据えて（2）～（能城一郎）

どの論考も平易な文章で、信徒の皆さまにも読みやすいようにできる限り配慮しながら、それでいて教会が直面している神学的課題に向き合うように私たちを導き、共に考えさせてくれる内容となっています。ぜひ、それぞれの教会でお読みくださり、ご活用いただけたら幸いです。（文責・総主事）

流れのほとり

No.32

「かたりば」へのご招待

宗形友子 女性委員長
流山福音自由教会

「朝ごとに あなたの恵みで私たちを満ち足らせてください。私たちのすべての日に喜び歌い、楽しむことができるように。」
(詩篇 90:14)

冒頭の聖句は、ある朝読んでハッとさせられたみことばです。心騒がせられ、頭がいっぱいになっていた時、喜び歌う状態ではないことをご存知の主が、このみことばをくださいました。私が必要としていた祈りそのものでしたので、感謝で満たされました。

「いと高き方の隠れ場に住む者 その人は、全能者の陰に宿る。私は主に申し上げよう。『私の避け所 私の砦 私が信頼する私の神』と。」(詩篇 91:1～2)

いと高き方が隠れ場を備えてくださる、いえ、主ご自身が隠れ場、避け所、砦となってくださるというのです。なんと幸いなことでしょうか。

現代、ライフスタイルは多様化し、置かれた状況も環境もさまざま、困難な問題に押しつぶされそうになりながら、もがきつつ乗り越えてゆかねばならないことも起こります。心と信仰が保たれることを祈りつつ、這うように進むこともしばしばです。けれどそのような時、重荷を分かち合い、共に祈り合える友がいること、またそれに気づけることは幸いです。

「かたりば」は「宣教に生きる女性」をテーマに、主に寄り頼み歩んでおられる女性のお証を聞き、学び、分かち合う場を提供したいと願いつつ準備をしています。講義形式であったり、恵み体験のお分ちであったりと形式はいろいろですが、毎回の気づきが与えられ、感謝な時となっています。

4月27日に第13回「かたりば」が開催され、大竹文(あや)さん・哲也さんご夫妻が、養育里親についてお話をくださいました。養育できない(養育することが難しい)事情のあるご家庭の子どもたちに、温かいご飯と布団を提供したいという願って…その思いが強く伝わってきました。食事の前に「ご飯はよく噛んで、座って食べるんだよ」というお約束から始めなければならない子どもたち。それまでどんな生活をしていたのでしょうか。ついつい親を批判したくなる思いがよぎったのですが、文さんは「ここまで親御さんは本当に一生懸命に子育てしてきたんだなあと思います」と言われた言葉と眼差しに暖かさに心打たれました。里親は期間限定とのことでしたが、言い表せないご苦労があることでしょうか。別れはいつも辛いことでしょうか。その一日一日のお働きが、主の守りと支えと導きの中で営まれていることを思いました。

「かたりば」はオンライン開催です。どこからでも、どなたでも(男女問わず)参加できます。それぞれのデバイスの画面上ではありますが、皆さまとご一緒できることを楽しみにしています。



JEA/ ローザンヌ

アライズ・アジア 2023 報告

岩上敬人 JEA 総主事



2023年7月25日～29日にタイにおいて、アライズ・アジア2023が開催されました。この大会はアジアの18～30歳のZ世代と呼ばれる青年たちの大会です。アジア38カ国1800人の若者が集いました。日本からの参加者は37名でした(KGK、CCC、TCU、CBSをはじめ様々な教団教派から)。ローザンヌ委員会の武田考平師が実行委員会に入って、尊いご奉仕をしてくださいました。テーマは「福音が届いていないところに出て行きなさい」でした。参加した日本の青年の皆さまに神さまの導きをお祈りください。

『その時に備えて PART 3 憲法改正の何が問題かを考える』

児玉智継 社会委員長
JECA 布佐キリスト教会

社会委員会では、憲法問題への取り組みの成果として、『その時に備えて PART 3 「憲法改正の何が問題か」を考える 憲法問題 Q&A』を発行しました。今回は、改憲四項目を中心に考えてみました。それは、岸田文雄首相が「自民党が掲げている四項目はすべて現代的な喫緊の課題ばかりだ」と述べ、四項目を中心に議論を進めていきたい考えを示していたからです。

私たちキリスト者は、主イエスが教えた祈りのように、神のみこころが「天で行われるように地でも」行われるよう献身する者たちです。神の創造したこの世界は、正義が行われる場所、平和が実現する場所、公平かつ公正な扱いがなされる場所、正直さや誠実さに溢れる場所であるべきです。もちろん、日本国憲法は完璧なものではありません。また日本国憲法を守っていれば、神の国が実現されるというものでもありません。しかし、たとえば「戦争放棄」や「すべての個人が平等に尊重される」という条文などは、聖書的な価値観と共通するものです。ですから、日本国憲法の諸理念を問いつつ、それを守っていくということは、キリスト者として、この地の上に神の国の現実を創造していくことと無関係ではありません。この世界における正義や平和を求める叫びは、キリスト教会の中でこそ取り上げられ、大きな声にしていかねばならないのです(本書「まえがき」より)。

この小冊子では、各項目の最後に一般的な書籍の紹介があります。また、自分の考えを整理したり、グループで分かち合ったりするための設問があります。ぜひ個人の学び・グループでの学びのためにご活用ください。この小冊子対話を生み出し、キリスト教平和論を構築して行くための一助になればと願っています。憲法問題 Q & A のバックナンバーの在庫もあります。

JEA 事務所までお問い合わせください。

また社会委員会では、憲法問題への具体的な取り組みとして、「安保関連三文書改訂を閣議決定したことについての反対声明」を出しました。その理由としては、①国民主権、立憲主義、民主主義に反するため、②平和主義に反するため、③基本的人権尊重の精神に反するため、です。聖書では、「平和をつくる者は幸いです」(マタイ 5:9)と教えられ、「自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」(同 5:44)と命じられています。今回の敵基地反撃能力の保有は、この聖書の教えに明確に反しています。また、すべての人間が「神のかたち」に創造され(創世記 1:26)、「高価で尊い」存在であり(イザヤ 43:4)、その基本的人権が奪われるような決定は到底容認することはできません。

コロナ・パンデミックやロシア・ウクライナ戦争などによって、憲法改正の動きは強まっています。「その時」に備えて、皆さまと共に考え、学び続けていきたいと願っています。



問い合わせと注文は
JEA 事務所まで。
(03) 3295-1765
FAX(03)3295-1933
admin@jeanet.org

定価 200 円

JEA 国際渉外室

岩上敬人 JEA 総主事



2023年10月23日(火)～27日(金)にアジア福音同盟(AEA)40周年記念大会(ACML'40)がインドネシアのセンツール国際会議場で開催されます。日本福音同盟でも理事、総主事、国際渉外室長、AEA専門委員を派遣して、式典や会議・研修に参加します。

JEAはアジア福音同盟の発足に深く関わり、長年にわたりAEA議長(蔦田公義師、植木英次師)や理事を派遣してきました。アジアはクリスチャン人口が劇的に増加し、世界のキリスト教の中心になりつつあります。AEAがアジアと世界に祝福をもたらす宣教協力のハブとなるようお祈りください。

C link ゆるくりナイト

吉澤慎也 青年委員長
KGK 総主事

社会人クリスチャン青年の交わりを促進する目的をもったC link 企画第一弾「ゆるくりナイト」は、2月17日（金）に行われました。

新型コロナウイルス感染症の分類が5類になる前でしたので、どれくらいの人がどんな様子で参加するのかまったく想像できない状態で迎えた当日。1週間の仕事を終えた青年たちがちょっと緊張した面持ちで、次々と渋谷のhi-b.a.センターに集まってきました。中には渋谷駅周辺の大規模再開発により、会場を見つけづらくて道に迷ってしまった方もおられると思いますが、複数の電車が乗り入れている渋谷駅に近い場所なので、多くの人には仕事帰りに足を運びやすかったと思われます。

Third Place Worship の賛美を「聞く」というより、彼らのリードで、参加者みんなで心合わせて主を賛美し、証を聞き、小川真先生（日本同盟基督教団・国立キリスト教会）のご経験を交



Third Place Worship の讃美

えて解き明かされたみことば（申命記26章より「初物を手に」）に耳を澄ませる・・・この金曜日の夜はとても贅沢なひとときとなりました。集会後のアンケートを見ても、「働くことや礼拝、献金の意味を知ることができてよかった。」「また開催してほしい」「教会ではなかなか出会えない同年代に出会えて交われたこと感謝」「定期イベントになれば、教会の友人や学生キャンプには参加できない社会人クリスチャンを誘って参加しやすい」など、多くの参加者がこのイベントを喜んでくださったことがわかりました。

参加者の顔ぶれは、社会人だけでなく、ゲストのファンだという大学生たちも駆けつけ、60人を超えました。国籍も様々



で、集会後半のスマールグループでの分かち合いの時間は英語が飛び交うところもありました。まだ顔の半分はマスクに覆われている状態でしたが、集まれること、主を賛美すること、みことばの恵みにあずかることを



ゲストスピーカー小川真師

喜ぶ姿がそこにあったのです。実際、主によって導かれた職場や学校で、今まで経験したことのないコロナ禍を通った私たちは、大きな不安やストレスを抱えていたと思います。そこに今回、賛美やみことば、主にある交わりを通して癒やしや慰めをいただき、進むべき道を示されたと言えます。教団教派も異なり、年齢も住んでいる場所も、働く業種も趣味や特技も異なる、初めて会った人たちなのに、主の恵みをともに味わうことができるのは私たちの大きな特権だと感じました。日本の社会の中でクリスチャンは少数派で、時に生きづらさを感じるかもしれないですが、いただいた恵みを感謝し、特権を活用してみことばに従う歩みを続けていってほしいと思いました。

彼ら社会人クリスチャンの励ましの場を継続的に持つべきではないかと考えているので、青年委員会はやり方等を模索しています。今後C link の企画に重荷を持つ方が与えられることを願います。ともに祈ってください。

「見よ。なんという幸せ なんという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって ともに生きることは。」（詩篇 133:1）



第38回 JEA 総会・理事選挙



前期理事会メンバー

23年6月5日(月)～7日(水)に第38回 JEA 総会が開催されました。昨年からの対面開催に戻りましたが、今年は、コロナウイルスのパンデミック前とほぼ同じ規模での開催となりました。代議員、オブザーバー、陪席者、奉仕者が一堂に集まりました。特に今年は3年に一度の理事選挙、理事長選挙が行われた大切な総会でした。コロナ禍の中、大変な3年間の任期を務め、退任された9名の先生方に心から感謝をいたします。石田敏則師(シオン・キリスト教団)、内山勝師(イムマヌエル総合伝道団)、朝岡勝師(日本同盟基督教団)、井上義実師(日本イエス・キリスト教団)、島津吉成師(日本ホーリネス教団)、船橋誠師(日本メノナイトブレザレン教団)、星出卓也師(日本長老教会)、三浦春壽師(日本福音キリスト教会連合)、山崎忍師(ウェスレアン・ホーリネス教団)です。それぞれの先生方の今後のお働きに祝福をお祈りいたします。

第7回日本伝道会議・東海(JCE7)に向かって

9月19日(火)～22日(金)にJCE7が開催されます。「おわり」から「はじめる」宣教協力というテーマの下でメインセッション、AGT(アクショングループタイム:分科会やプロジェクト)やSGT(スモールグループタイム:小人数での交わりとディスカッション)が軸となる集会がもたれます。1250名の登録者があり、皆さまが集まることを楽しみにしています。今回はパンデミック後のJCE7ということでオンライン参加も可能となっています。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

JEAではJCE7会期中にJEA外の幅広い日本のキリスト教界のリーダーの先生方をお招きしてJEA懇親会をもつ予定です。NCC議長、日本基督教団、日本ナザレン教団、日本ペンテコステネットワーク、カトリック中央協議会、日本聖書協会の先生方です。また海外から世界福音同盟(WEA)総主事のトーマス・シルマッハー師をお迎えします。伝道会議にWEA総主事を迎えるのは初めてのことです。その他韓国福音主義協議会(KEF)から4名の先生方もお迎えする予定です。宣教協力のための代表の皆さまの交わりが祝福されるようにお祈りください。

第4回ローザンヌ世界宣教会議(ローザンヌIV)

来年2024年9月に第4回ローザンヌ世界宣教会議が韓国・ソウルで開催されると発表がありました。ローザンヌ運動は1974年に始まり、マニラ会議(1989年)、ケープタウン会議(2010年)と世界宣教会議が行われてきました。次は韓国、日本、その他のアジアの教会が中心となり、アジア全域のリーダーたちが協力しながら開催されることとなります。アジア2021大会(オンライン)、アジア2022(タイ)、アライズ・アジア2023(タイ)が開催され、アジア諸教会の協力が積み重ねられて、準備が進んできました。多様な文化、言語、宗教をもつアジアで、教会とクリスチャンがひとつとなって神の御国の建設をしていくためにお祈りください。現在、ローザンヌIV出席のために日本からも参加者がノミネートされています。JCE7に続く、世界の宣教会議のためにお祈りください。



JEA 総務局から

- ◆ JEA ニュース 61 号は 7 月に発行を予定しておりましたが、伝道会議の準備などの諸事情が重なり、発行が遅れました。執筆者、関係者の皆さまにお詫びいたします。
- ◆ 本年度より、ウェスレアン・ホーリネス教団の後藤貴子先生を新たにスタッフとしてお迎えしました。
- ◆ 長い間、JEA 総務局でご奉仕をくださった松下和弘先生は退任されました。これまで、JEA の屋台骨として支えてくださった先生に心から感謝しております。総務局次長は、山崎忍先生(ウェスレアン・ホーリネス)が担ってくださいます。



日本福音同盟

心をつなげて福音の信仰のために力を合わせて戦い(ピリピ 1:27)

JEA ニュース 61 号 発行・日本福音同盟(JEA)
発行者: 水口 功 編集者: 岩上 敬人
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC501
TEL: 03-3295-1765 FAX: 03-3295-1933
email: admin@jeanet.org
郵便振替: 00150-8-68442 (口座名義: JEA)